

口唇の秘密

お久しぶりです。歯科医師の秋廣良昭です。私が開発したパタカラを千鳥福祉会の利用者様に使ってもらうようになってから、約2年が経過しました。この約2年の間、職員の皆様のご協力と現在まで変わらず利用者様にパタカラをご利用いただいております。その甲斐あって利用者様の健康面でも

様々な変化が見られてきました。それらの利用者様の变化を含め、口唇と体の不思議な関係について、この紙面をお借りして改めて皆様にご紹介したいと思っています。

さて近頃、口唇の存在・働きが健康と大いに関係あるとして注目されるようになりました。口唇といえば口紅を引くなど、美容の面では注目されても、健康と関係があるなどのイメージはなかったことです。今の私たちにとっては在って当たり前の口唇も遙か何千万年という悠久の時間を経て今の

形態に至りました。過去の動物たちが現在の私たち人間にまで、いかにして進化してきたかを研究する学問を系統発生学といいます。系統発生学を応用し、人間の進化の過程を振り返ることで今の私たちの健康を保持増進する手助けともなります。

今回は口唇が長い時間をかけていかに進化してきたかをご説明します。口唇を考えると健康との意外な関係が見えてきます。

ですが、実際に地震がおきたらと思うとぞっとします。今から地震に備えて、まずは身近なところから対策を行っていききたいと思います。

(防災会議 川本)



神戸市 小原保子

Leaving Care News

-No.98-

〒690-0814 松江市東持田町1415
 社会福祉法人千鳥福祉会
 知的障害者更生施設持田寮
 TEL 24-8820 FAX 24-8825
 知的障害者通所更生施設
 L.C.C.ういんぐ
 TEL 24-8871 FAX 24-8872
 千鳥福祉会ケアセンター大空
 TEL 24-8807 FAX 24-8808

2004.12.1

学会名「障害のある人と援助者でつくる日本グループホーム学会」

第1回について ～本人の主張その3～

昨年の9月から月1回開いているグループホーム利用者自治会「どんぐりの会」は、「自分達の問題は自分達も考え、みんなで解決しよう」という目的で始まりました。期せずして、この学会の趣旨と重なったこととなります。

4月13日、8回目の「どんぐりの会」記録より

竹内「第1回のグループホーム学会が横浜であります。」

Hさん「何人か興味のある人は行けばいいじゃないの」

Kさん「とてもじゃないけど行け

ないんじゃないの」

興味のある3人を連れて行こうと、費用を調べたところ3万円は最低必要。相談の結果、「年金が半分なくなつては暮らせない。積立が必要だね。」と言うことで、今回は利用さんの参加は見送りとなりました。

学会は、講師による「住まいのあり方」という講演に続いて、行政からの「今後の障害者福祉の動向とグループホーム」についての説明があり、そして「この日本グループホーム学会に期待するもの」ということで、入居者や家族の発言からシンポジウムに入りました。

「もう施設には帰らない」「自分達の気持ちをもっと聞いてください」

第11回全国グループホーム職員研修会に参加して

まず、幅広い年齢層の方の参加に驚きました。

地域で生活する場合、避けて通れない問題として異性の問題がありますが、発表の中に「結婚もよし、結婚ができなければ同棲もよし、夫婦のグループホームもあり」と積極的に人間らしさを応援されているところがありました。

ホームは、他人との共同生活という制約があり、なんでもありというわけにはならない状況がありますが、「個人の暮らし」を可能な限り

大切にし、自由で、くつろぎの場になるようにしていきたいと感じました。同時に、ホームが到達点ではなく次にステップアップする人がいると感じることも多く、人生を自分で選択し自信を持って生活されるように継続的なサポートをしなければならぬと感じました。

また、今後、グループホームでの暮らし方に対して、利用される方から出る願いはどんどん多様化すると思います。世話人としての現況に甘えず意識改革や情報収集を大切に、バックアップ施設からのフォローも戴きながら、口こみでもいい、「あのホームに行ってみよう」と

「自分らしく暮らせる場が欲しい」「職員の勤務体制に合わせた生活は出来ない」「ホームでの暮らし方は自分達で決めたい」等の意見発表や、全国の様々な取り組みの発表がありました。「通所している方が親の死と共に行き場がなくなった。居室はないけど、とりあえず、施設の一部屋に畳を敷きタンスを持ち込んで…」

食事、排泄、入浴、体位交換と身体介護がなくては生きていけない方のアパート生活を見て人が望むなら自分達は支援する。」など、支援側の姿勢に、「制度がなくても必要だから支援する」「できないと言わずどうしたらできるかを考える」この仕事の大切な部分を再確認すると同時に、まだまだ職員の勤務に合わせたグループホームの運営体制についての課題をもらって帰りました。
(ケアセンター大空・竹内)

思われるようなホームを目指したいと感じました。(グループホーム世話人・安達)

平成16年度認可申請中のグループホーム「ウインザー」です。



知的障害がある方が地域での暮らすことについて大家さんのご理解を得て1階をお借りしました。平成ニュータウン入り口にあり、とても便利です。現在体験入居期間中で、次々体験していただいております。人気絶頂です。見学においでください。(担当 川岡)

起震車体験～

おーおぞー!

今新潟地震で大きな被害があり、多くの方が被災されて避難生活を送っておられます。偶然ですが持田寮では地震に備えて、起震車を体験する計画を立てていました。10月27日(水)、半年前から予約をしてやっと順番が回ってきました。丁度新潟地震のすぐ後という事もあり、たく

さんの方に地震を体験してもらいました。震度7まで体験できるという事で、5,6名ずつ車に乗ってもらいました。いざ荷台に設置された仮の部屋が動き出すと、身動きもできず、火を消したりなんてとんでもない、倒れないように足を踏ん張るのがやっとでした。少し振動が収まってからやっとガス栓をとめることができました。利用者の方に感想を聞くと「怖かった」という声が多かったです。職員もかなり怖がっていたようでした。これはあくまでも体験

頂き物をしました。ありがとうございます。

- | | |
|--------------|----------|
| 八雲村サービスセンター様 | 島大附属中学校様 |
| 松江養護学校様 | 大昌(株)様 |
| 秋廣良昭様 | 喜楽様 |
| 綿久リネン様 | 煎澤優子様 |
| 白鹿倭文様 | 平野利政様 |
| 門脇富子様 | 山岡敏孝様 |
| 柳重幸様 | 榎戸孝之様 |
| 畑 量子様 | 宮本智徳様 |
| 宮本光子様 | 三代勝士様 |
| 足立勝美様 | 犬山文二様 |
| 鈴木茂夫様 | ふたば園様 |
| 鳥取短期大学様 | |

- | | |
|--------------|----------|
| 竹内正子様 | 江角みどり様 |
| 宍道湖しじみ漁業組合様 | |
| 松江養護学校様 | |
| (株)建築技術センター様 | |
| 一畑タクシー(株)様 | 市川二三子様 |
| 松江医療福祉専門学校様 | |
| 原文タイプ(有)様 | 林 富弘様 |
| 日清医療食品(株)様 | |
| デンタルキューミー様 | |
| 永野奈保子様 | 日交整備(株)様 |
| 寺本洋一様 | 仲田誠次様 |
| 足立勝美様 | 舟木春子様 |
| ストーク作業所様 | 佐川東興様 |
| 安達春子様 | 中村文子様 |
| 三上和子様 | 成瀬 義様 |

日産労連からの贈り物～劇団「つばさ」による人形劇 「象つかいのソムポット」



呼びかけにこたえて観劇にきてくださった方々に心からお礼を申し上げます。

すごかったですね！むちで象をたたく親方へのプーイング。親方はむきに

先日はお招きいただいて楽しい時間を過ごさせていただきましてありがとうございました。

舞台と客席が一体となって楽しめ、子どもたちもどっぴりとお話の中に入りこんで笑ったり、心配したり、身体を動かしたりしていたようです。

帰りのバスの中や園に帰ってから子どもたちの声を聞くと「象の耳から血

なって観客に「うるさい！だまれ！子供に何がわかる！」などと、そのやり取りはしばらく終わらず、親方はたじたじでした。「むちでたたいたらだめー！」って泣き出しちゃった子もい

が出てかわいそうだった」「本物の象かと思った」「サッカーでバナナを落としたのがおもしろかった」「ねずみが速く走っておもしろかった」等々たくさんお話しをしていました。

子どもたちの心の中にいくつもの場面が残ったようです。

又、いろいろな所から来られていた方や持田寮の方たちと自然な形で交流

て、たくさんの正義とやさしさに出会えました。

さすが持田寮の皆さんは大人。「持田寮の皆さんもがんばってね！」といわれて、「これ以上がんばったら死ぬ

ができてそれもいい経験だったのではと思います。

これを機につながりができ、何かの形で交流ができる場が持てればと願っ



といった人もいて。私たちの心には「さわやかな風」がササーッとふいていった心地よさが残りました。

日産労連の皆様、劇団「つばさ」の皆様、ありがとうございました。

ています。ありがとうございました。わかたけ保育園長児担任 勝部 雪子



職員も変装しておもてなし。

自分の家がある喜び 「地域生活体験ホーム・外垣」

普通のくらしがしたい ～本人の主張その4～

入所利用者Mさん宅が空き家になっていることから、「遠ざかっている地域での生活が少しでも味わえる機会」ができればいいと地域生活体験を計画しました。管理されている親戚の方のご理解、ご協力もあり3月から毎週水曜日の午後お邪魔しています。看板まで掲げているわけではありませんが、Mさんがご両親と生活されていたころの屋号を採って「外垣」と名づけました。

ここでは、職員2名、利用者3～4人の小グループで草取り、掃除、雑談、ゲーム、お茶など、のんびり過ごすものです。Mさん自身は自分の実家でもあり、施設での生活ぶりと違いとても生き生きとされ、先頭に立ってお茶を振舞われたり、ご両親の仏壇に手を合わせられたり、「サービスを提供する場所」について改めて考えさせられます。ほかの利用者さんも影響があり「こんなことができるの？」と新たな発見もあ

ります。皆さんがほんとに望んでおられることは、何気ないごく当たり前の生活の中に散らばっているんだなと私たち職員も改めて気づかされているところです。（持田寮・山崎）



4/21 庭の草取りも終わり、お隣の方を呼んでお茶



9/29 中秋の名月会



4/28 花壇の草取りと花の苗植え



7/21 花壇も色づき、草取り



7/7 2週間かけて出きあがった七夕かざり



9/22 お墓まいり



10/6 近くの佐陀川でハゼ釣り

地域生活体験ホームで

鳥取短期大学保育実習 羽賀

今日はMさんと一緒に地域生活体験をしました。Mさんは、施設にいるときはあまり話をしてくれないのですが、体験のときは声掛けに応じてくれたり、話をしてくれたり、わ

からないことは教えてくれたり…どうして施設にいるときと違うのかなあと考えます。体験する場所はもともMさんの家だったみたいで、自分のほうが詳しいからやらなきゃならないという気持ちが出てくるのかなあ、そういう気持ちが出て行動できるのはいい事で、自分が自分でいられる場所なんじゃないかと思っています…。

佐陀川メモ

宍道湖と日本海を結ぶ運河(佐陀川)は、天明5年から30年かけて清原大兵衛等により開削されました。恵曇港と松江市を結ぶ要で日本海の魚を売る行商の定期船と合同汽船の航路になっていました。今は石垣やコンクリートで補修され見かけなくなりましたが、昔は土堤防のため、兩岸の水際には多くの蟹が穴をつくって生息し、この蟹を「大兵衛蟹」といって親しんできました。また、兩岸の古江村、生馬村の子供達のハゼ釣りや水遊びの場でした。巾は2.5メートルありますが、宍道湖

に近い場所は川幅も広く浅瀬になっていて、夏休みには子供達は胸までつかりながらシジミを拾って売り歩き、そのお金で「せんべい」を買って喜んだのは戦時中のことです。戦後は陸上交通が発達して、魚の行商も船を使わなくなり、佐陀川は淡水と塩水が入り混じっていますので、川魚と海の魚が混在し、兩岸の皆さんや市内の方々の釣り場になっています。また、夕方になると松江高専ボート部の皆さんの練習場にもなります。（外垣管理者・長野）

10月6日、好天の午後、松江高専ボート桟橋で釣り竿をたれました。ハゼが20匹、スズキの稚魚4匹、「外垣」利用の皆さんの笑顔が川西に移るころ引き上げました。